

平成16年11月25日

茨城県教育委員会 発行

教育いばらき

Education in Ibaraki No.4

Photo インフォメーション

広がれ！教育の輪

教育関係のコミュニティ活動を紹介します



ライス学園の活動の様子。体験学習に力を入れています

地域に根ざした地域立学校として

第4回 NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所

「リヴォルヴ」とは、循環という意味です。「リヴォルヴ学校教育研究所」の名称は、子供たちの教育のため、地域に根ざして地域・学校に活力を与えるように、常に「循環」する組織でありたいという願いが込められています。

「リヴォルヴ」の活動には、三つの柱があります。第一に、主に不登校児童生徒のための「ライス学園」の運営。現在は週四日開校し、平均して十人から十二人の子供が登校しています。スタッフは、大学生から元校長先生まで、毎日六、七人に対応。時間割も子供たちと相談し、一人ひとりのペースにあわせた学習を進めています。また、他のNPO法人の「自然生クラブ」「日本スポーツ振興協会」と協力して、スポーツ・太鼓・絵画・造形・農作業等の体験学習も取り入れています。

第二に、不登校やLD（学習障害）、英語等のセミナー・ワークショップの

「いばらきマナビィ・ネット」 <http://www.manabee-net.org/>



ゲストティーチャーによる「私らしい服装計画」をテーマにした家庭科の授業（取手市立戸頭中学校）

実施。教師と保護者が一緒に研修を受けるなど、工夫した内容で、これまで述べ二千人が参加しています。

第三に、文部科学省からの委嘱事業として、インターネット上に「いばらきマナビィ・ネット」を立ち上げ、子供たちの質問に地域の方から回答をいただく学びのQ&A掲示板の運営や、地域と学校を結ぶゲストティーチャーのコーディネート等に取り組んでいます。単に紹介だけでなく、授業プランの実際的な助言もしています。

このような活動を通じて、小野村哲理事長は、「子供のつまずきに寛容になろう」「皆で一緒に力を寄せ合って、地域ぐるみで子育て支援をしよう」と訴えます。そして、「リヴォルヴ」は子供たちのため、地域に根ざした「地域立学校」として、今日も滞ることなく、支援活動を続けています。

問い合わせ先 電話090(856)8143